

7. 子どもの被害

不安に思うこと

- ・暴力を見てきた子どもは将来暴力を振るうようになるのではないか、
- ・精神的に傷ついているのにどう対応したらよいか
- ・子どもがわかってくれるかどうか心配
- ・子どもが家に帰りたいという
- ・父親の事を心配する
- ・家を出てから子どもが赤ちゃん返り、言う事を聞かない、母親にまとわりつき離れない、わざと困らせる、乱暴、他の子に意地悪する



こんな風に考えてみよう！

* 暴力を見てきた子どもは将来暴力を振るうようになるのではないかな

- ・子どもは 暴力環境下で生活しており、暴力的な言葉使い、暴力的行動の学習をしているので対人関係で暴力的になる事もあるが、同時に暴力の目撃により、不安や恐怖心を持ち、緊張強く、暴力を振るう人の顔色を窺い、あるいは被害者の母親を心配し、子どもとしての感情が抑えられてしまい、不登校やひきこもりになることもある。おちつきがない、夜尿、アレルギーや喘息などさまざまな症状が出ることもある。
- ・暴力のない環境下で、安心して感情を表出し、暴力によらない人間関係を学習する必要がある、子どもは安全で安心できる環境のもとで始めて健康に発達できる。

* 子どもが家に帰りたいたいという。どう説明したらよいか

- ・ 子どもは親と同じように状況を見る事が出来ない。友人と遊びたい、大事なものを置いてきた、今の生活が不自由、戻らないと父親に叱られるなど、限られた範囲で考えている場合もある。
- ・ 子どもの意思是尊重するが、母親自身の考え方を、自分の言葉でしっかり伝えることが大切。

* 家を出てからの子どもの不安定

- ・ 子どもも母親と同じように不安。子どもも母親と同じようにトラウマ症状をかかえている。不安な気持ちを母親に受け止めてもらいたいが、母親も自分のことで精一杯。今まで言えなかった複雑な思いも合わせて一度に表出され、自分でもコントロールできない場合もある。それだけ子どもも大変だったことを理解し、表現できるようになったことはよかったと考えよう。母親だけでは受けとめきれない時には専門機関に相談していこう

8. 暴力を拒否したことは勇気ある一歩！

家を出てきたことは、母にとっても子どもにとっても暴力を拒否する勇気ある一歩
暴力を拒否できた事は心が健康であったから
自信を回復して欲しい
人間には嬉しい時に喜び、悲しい時に悲しむ
権利がある。誰もその権利を侵害することは
できない。
自分の気持ち、感情、からだを大切にしていこう
相談機関を利用しよう

